

# 小堅マンホール蓋、浄化センター銘板のご紹介

小堅マンホール蓋のデザイン、小堅浄化センター入口の銘板の揮毫は、小堅地区自治振興会役員と協議を行い、小堅地区に縁のある方に依頼したものです。

マンホール蓋は、小波渡出身で新しくなった豊浦小学校の校章もデザインされた、上野隆光様にデザインして頂いたものです。

浄化センター入口の銘板は、堅苔沢在住で地元の習字の先生でもある志田孝士様に揮毫して頂いたものです。

地元の方より快く引き受けて頂き、素晴らしいものが出来きましたので、ここにご紹介します。

また、カラーのマンホールは、小堅コミセン前の国道7号歩道と旧小堅小学校の2箇所に設置してありますので、機会がありましたら是非ご覧下さい。



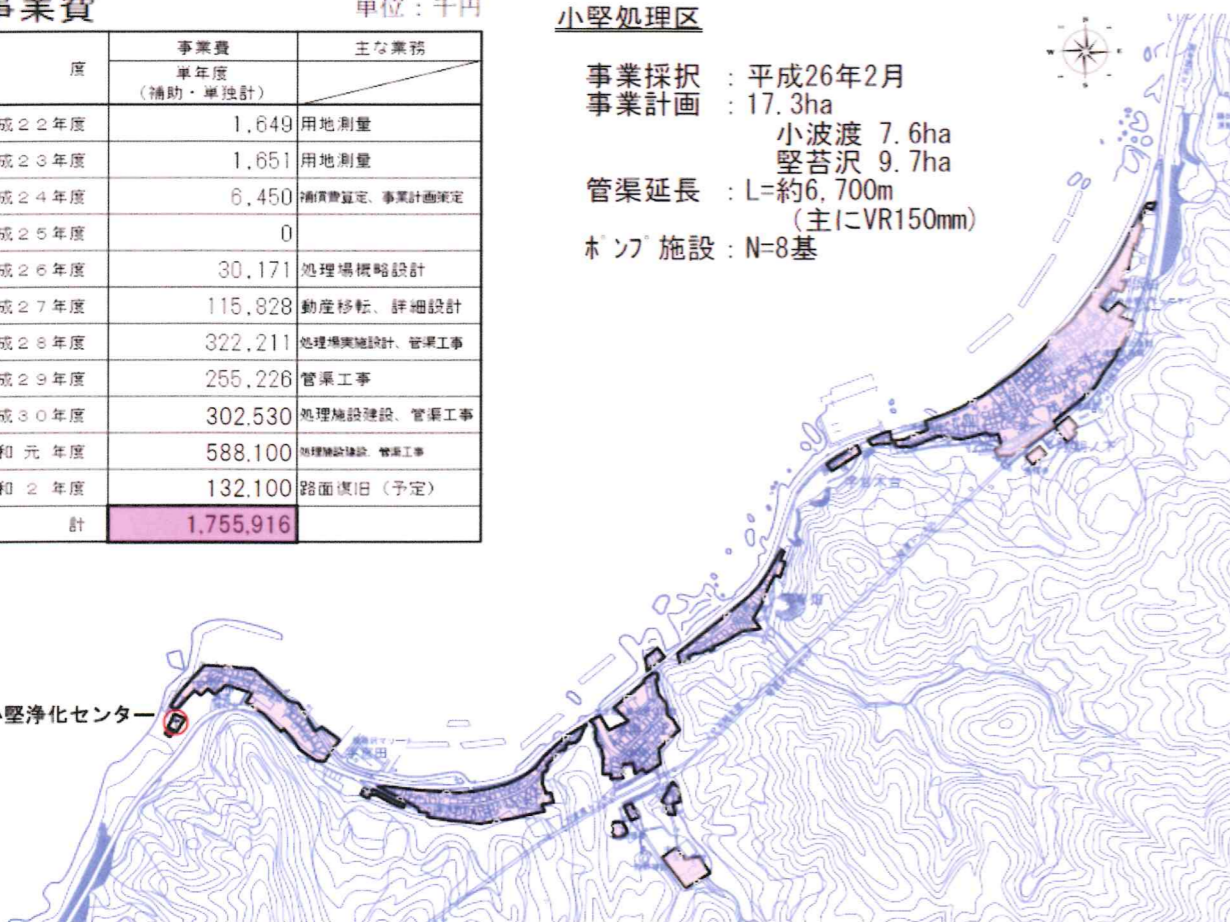
小堅浄化センター

## 事業費 単位：千円

年 度	事業費		主な業務
	単年度 (補助・単独計)		
平成22年度	1,649		用地測量
平成23年度	1,651		用地測量
平成24年度	6,450		補償費算定、事業計画策定
平成25年度	0		
平成26年度	30,171		処理場概略設計
平成27年度	115,828		動産移転、詳細設計
平成28年度	322,211		処理場施設設計、管渠工事
平成29年度	255,226		管渠工事
平成30年度	302,530		処理施設建設、管渠工事
令和元年度	588,100		処理施設建設、管渠工事
令和2年度	132,100		路面復旧(予定)
合 計	1,755,916		

## 小堅処理区

事業採択 : 平成26年2月  
 事業計画 : 17.3ha  
           小波渡 7.6ha  
           堅苔沢 9.7ha  
 管渠延長 : L=約6,700m  
           (主にVR150mm)  
 ホンフ施設 : N=8基



## 山形県鶴岡市 上下水道部 下水道課

〒997-0819 山形県鶴岡市のぞみ町2番10号 TEL:0235-25-5860 FAX:0235-22-9690

メール: gesuidou@city.tsuruoka.yamagata.jp

# 鶴岡市特定環境保全公共下水道 小堅浄化センター



鶴 岡 市



# ごあいさつ

小堅浄化センターは、公衆衛生の向上並びに生活環境の改善を目的に、平成25年度から事業を進め、このたび供用を開始する運びとなりました。整備にあたりご尽力いただきました関係各位に、心から感謝申し上げます。

本施設は、コンパクトな構造ながら性能に優れ、維持管理も容易であるとともに、消毒設備は紫外線による方法を採用し、海への影響を極力減らす構造としております。

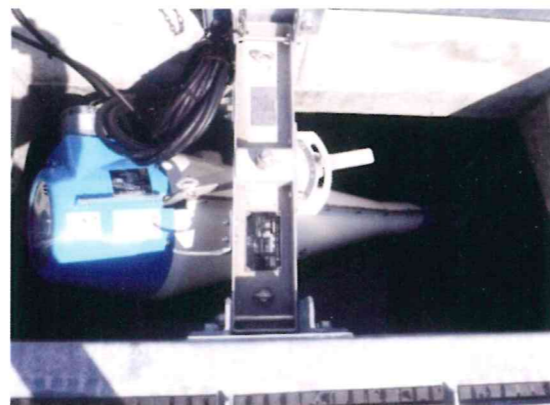
排出される汚泥につきましては、コンポストとして農地への還元、バイオガスとして発電のエネルギーとするなど資源としての活用を図り、さらなる循環型社会の推進に努めてまいります。

地域の皆様には、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

鶴岡市長 皆川 浩



管理室（動力制御盤・買電-仮設電源切替盤）



エアレーション装置

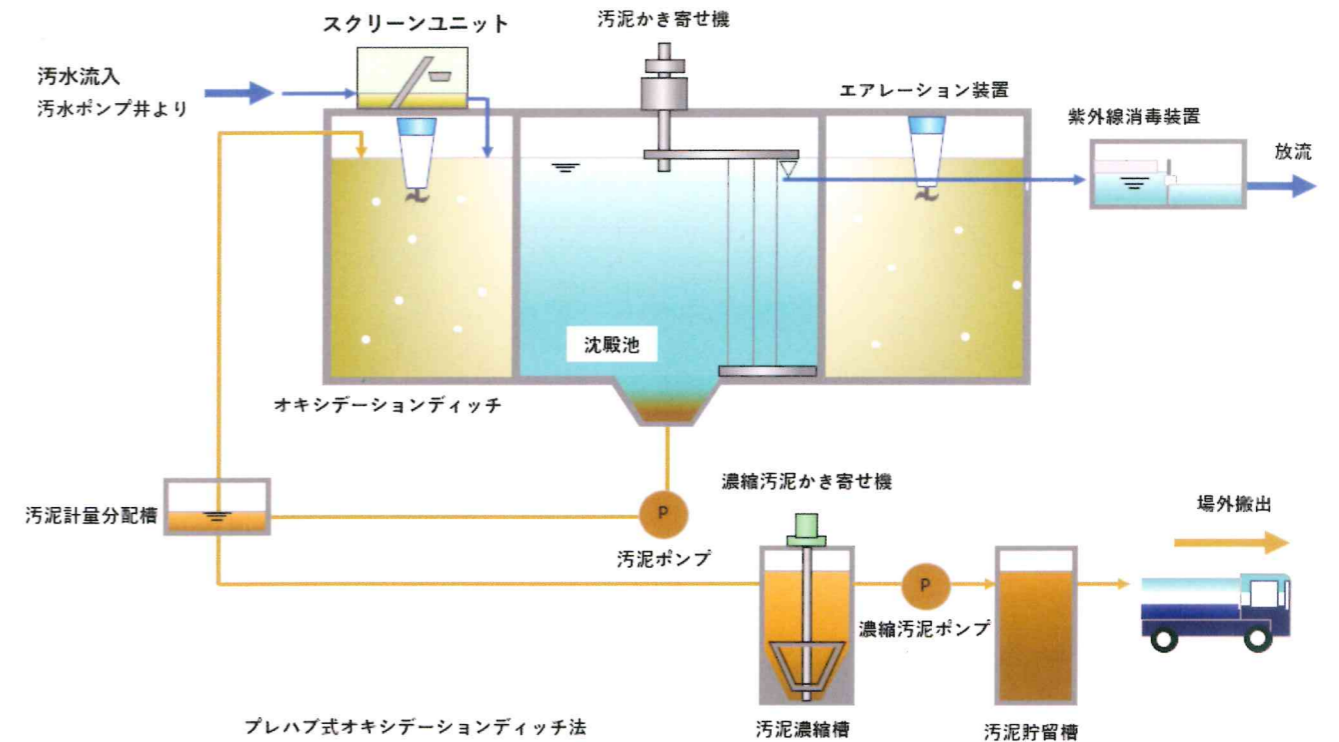


スクリーンユニット



汚泥ポンプ室（汚泥ポンプ・濃縮汚泥ポンプ）

## 小堅浄化センターのしくみ



## プレハブ式オキシデーションディッチ法 (POD) とは

汚水を浄化するための方法はいくつかありますが、下水道では微生物を利用した汚水処理方法が主流となっており、オキシデーションディッチ法 (OD) もその一つです。この名前は汚水を浄化する槽が、「酸素を入れる (=オキシデーション)」ことで微生物を活性化する「池 (=ディッチ)」であることに由来します。ディッチ内で汚水を巡回させ、エアレーション装置で空気を入れることにより、空気を入られた部分は酸素が多く溶け込み好気性微生物が、離れた場所では空気を嫌う嫌気性微生物が働き、汚水を浄化します。

プレハブ式オキシデーションディッチ法 (POD) は、そんなオキシデーションディッチ法を比較的小規模な施設向けにパッケージ化したもので、コンパクトな構造ながら処理性能も優れ、維持管理も容易な施設となっております。

### 小堅浄化センター概要

- 処理方式 : 水処理 活性汚泥法
- 汚泥処理 : 濃縮 → 場外搬出
- 消毒方式 : 開水路浸漬型紫外線消毒装置
- 処理能力 : 日最大 210m<sup>3</sup>/日
- 計画処理人口 : 680人
- 放流先 : 日本海
- 供用開始日 : 令和2年4月1日



浄化センター正面